

# 地域に生きる神社を求めて

講師：加藤 隆久 氏

(生田神社宮司、神戸女子大学名誉教授)

ミナト神戸に宗教多元主義を探る時、「神戸」という地名が生田神社に由来することに気づかされる。806年(大同元年)に遡ると、当時は「生田の神封四十四戸」と古書には記され、現在の神戸市中央区の一帯が社領であった。神地神戸(かんべ)の神戸(かんべ)がこの地の呼称となり、近年に神戸(こうべ)と呼ばれるようになった。今回の研究会では、「生田さん」と呼ばれ、地域で親しまれる神社の歴史と地域共同体で生きる生田神社の姿を共に学びます。どうぞご参加ください。

- 日時：2012年6月14日(木)  
13:30～15:00
- 会場：吉岡記念館2階研修室1  
(西宮上ヶ原キャンパス)

— 無料・一般参加可 —

関西学院大学キリスト教と文化研究センター

TEL: 0798-54-6019・[http://www.kwansei.ac.jp/c\\_rcc/index.html](http://www.kwansei.ac.jp/c_rcc/index.html)

●●●加藤 隆久(かとう たかひさ)氏  
岡山県生まれ。國學院大学修士課程を修了し、神職の傍ら甲南大学で教鞭をとり、また神戸女子大学教授として長く日本史を教えた。1986年文学博士の学位を取得。神戸・生田神社の宮司を25年間務め、神社本庁から「長老」の称号を贈られた。一方、地元商店会長や神戸カナダ友好会会長、神戸ロータリークラブ会長、神戸芸術文化会議議長を務めるなど、地域コミュニティーや社会、国際の舞台で多岐にわたり活躍している。著書「神社の史的研究」、「神道文化研究の諸相」、他多数。